

今宮いまみやの社むらさきは紫野むらさきにあり、疫えやみの神ななり。一条院でうあんの御宇正暦五年六月廿七日、船岡ふなをかの山上にまつりけるを、告夢ありて

長保二年五月九日此所にうつして、今宮とあがめらる。今は牛頭ごづ天王を勧請して二座なり。

後拾 白妙のとよみてくらをとりもちていはひぞ初むらさきむる紫の野に 藤原長能

弥生十日には夜須やすらい礼まつりとて、加茂かも上野の里人烏帽子素襖やうのものを着、太刀をかたげ、笛を吹き鉦鼓をならし、此社をめぐりてやすらひ花よと囃しける、一説に、春陽の節はかならず疫えやみの神分散して人を悩すなれば、当社をなだめしづめてをどりを催すとなり。又高たか雄の神護寺しんごじの法華会ほっけゑには、加茂今宮より祈念して悪気をなだめんとて、踊をなじけるより始るとかや、さるゆゑに高たか雄の法華会はやすらかにはてよとはやせしを、いつの頃よりかやすらひ花よあすなひ花よなんともいふ説あり。御ご霊会りやうゑは五月十五日なり、前の七日は御出とて船岡山ふなをかの東なる御旅所へうつし侍る。